

SECTION
05アイコンが自動的に付く
ユニークなリンクをつくる

Internet Explorer
6 7 8
Firefox 3 以上 Safari 4 以上



制作・文：佐藤とも子／サチコ（螺旋デザイン）

リンク先のURLから拡張子・外部リンクなど、様々な状況に合わせてアイコンを自動的に付けられます。リンクをクリックする前に得られる情報が増えるので、ユーザーフレンドリーなサイトを構築できます。

制作のポイント

- ・属性セクタを活用する
- ・CSSハックとbehavior: expressionでIE6に対応
- ・JavaScriptを使わずにXHTMLとCSSのみで実装する

使用するおもなコード／プロパティ

```
a[href$="**"]
a[href^="**"]
* html
behavior: expression
```

XHTML をマークアップする

01 まずXHTMLでリンク入りのテキストをつくりましょう 1-1。

06行目

スタイル作成に使うCSSは「link.css」という名前を付けて外部ファイルとしてリンクさせます。

09行目

zipのみのリンクで進めてみましょう。



TIPS

作例のソースコードはXHTMLです。文字コードがUTF-8の場合は、`<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>`というXML宣言を省略できます。

1-1 XHTML

```
01 <!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD XHTML 1.0 Transitional//EN"
   "http://www.w3.org/TR/xhtml1/DTD/xhtml1-transitional.dtd">
02 <html xmlns="http://www.w3.org/1999/xhtml">
03 <head>
04 <meta http-equiv="Content-Type" content="text/html;
   charset=UTF-8" />
05 <title>リンクのユニークな見せ方</title>
06 <link href="link.css" rel="stylesheet" type="text/css" />
07 </head>
08 <body>
09 <p><a href="test.zip">拡張子 (.zip) 付きのリンクをaタグに設定しています。</a></p>
10 <p><a href="test.html">比較用。リンク先の拡張子は「html」です。</a></p>
11 </body>
12 </html>
```

アイコン付きのCSSをつくる

02 01で作成したXHTMLにリンクするCSSをつくります 2-1。ファイル名は「link.css」とし、XHTMLと同じ階層に保存しましょう。

リンクのうしろにzipアイコンが付くデザインとなります 2-2。アイコンの画像は 2-3 のようにつくっています。ファイルの階層も確認してください。



TIPS

最初の行の@charset "utf-8";はCSSファイル用の文字コードです。これを明示しておかないとテキストエディタによっては、コメントなどの日本語の部分が文字化けしてしまうため、記述しておくことをお勧めします。

2-1 CSS (link.css)

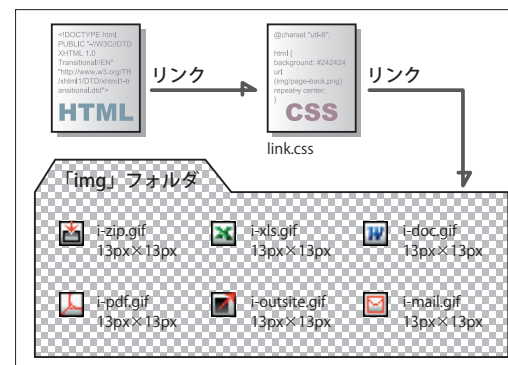
```
@charset "utf-8";
a {
background:url(img/zip.gif) no-repeat right center;
padding:1px 15px 1px 0;
}
```

2-2

拡張子 (.zip) 付きのリンクを設定しています。

比較用。リンク先の拡張子は「html」です。

2-3



TECHNIC 1 リンク先に合わせてアイコンが付く



XHTML にclassの記述のないaタグに自動的にアイコンが付きま

TECHNIC 3 mailtoや外部リンクにも対応



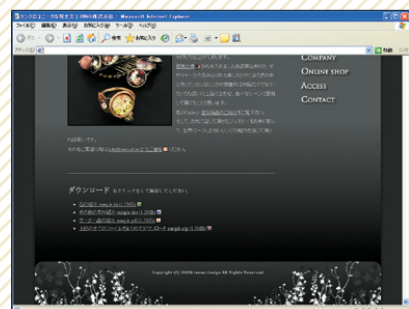
拡張子以外にもURLの文字列を判断してスタイルを付けていきます。

TECHNIC 2 リンク先の拡張子によるアイコンの違い



XHTMLでは普通のリンクですが、CSSの属性セクタで拡張子別に違うスタイルを付けます。

TECHNIC 4 IE6 にも対応



IE6でも表示できます。属性セクタではなくIE独自機能の使用で対応しています。